

第1章 自然と調和した快適なまちづくり

策定の視点

▼豊かな自然と調和したバランスのある土地利用の展開
北西部の筑波山系の丘陵地を持つ千代田地域、小河川によって刻まれた起伏のある緩やかな台地や湖岸の低地によって形成される霞ヶ浦地域、それぞれの地域の持つ役割を大切にしながら、それぞれの良さを生かしたバランスのあるまちづくりが求められています。



△霞ヶ浦と筑波山系からなる自然景観

▼一体的な都市構造の構築に向けたJR神立駅周辺整備
千代田地域と霞ヶ浦地域が接している箇所はわずかで、JR常磐線により分断されている状況です。JR神立駅周辺を中心とした拠点的土地利用を行い、市内各所を結ぶ交通ネットワークなどの検討を進め、一体的な都市構造を構築することが必要です。



△JR神立駅周辺は市街地の整備を推進

▼本市の特徴である自然環境の保全・育成
首都にも近い非常に恵まれた交通立地条件を持ちながらも「豊かな自然環境」という部分が本市の特徴です。筑波山系と霞ヶ浦をはじめとした自然環境とそれに育まれた暮らしの営みを宝物として、将来にわたって保全していく必要があります。

▼環境と共生する循環型社会を目指した環境にやさしいまちの創造
新エネルギーの導入などの新

たな環境づくりへの取組みを支援し、環境と共生する循環型社会の形成を目指していくことが必要です。また、霞ヶ浦を有する自治体として、水質問題に取り組んでいく必要があります。

重点プロジェクト

あんしん感UPプロジェクト

○市民の生活圏に対応するため、広域的な視点で道路体系

- を確立
- 主要な施設や地域間の連絡を円滑にする幹線道路を、計画的に整備
- 歩行者などの安全性や快適性を向上させ、安心して通行できる道路環境を確保するため、地域の実情に合った道路整備
- デマンド型乗合タクシーなどの試行結果を踏まえ、身近に利用できる公共交通を充実
- ライフラインとして安全な水を安定供給できるように給水施設の整備充実
- 災害や事故などに備え、水源や配水系統と接続により、給水の安定性を向上
- 水供給の非常時対応の管理体制を強化
- 火葬場の利用の推進を図るとともに、効率的な運営を促進。また、新斎場(石岡地方斎場組合)の建設を推進
- 市民の健康への影響を防ぐため、放射線量の測定などを継続
- 消防団施設の合理化や消防団員の確保
- 消防の広域化と消防救急無線のデジタル化、消防指令業務の共同化を推進
- 救命救急に関する隊員教育を

ブランドカUPプロジェクト

- JR神立駅周辺整備の進捗状況を考慮し、都市計画道路神立停車場線の整備を推進
- 公共用水域の水質保全のため、高度処理型合併処理浄化槽の設置を推進

後期基本計画の全文は、市ホームページに掲載しています。
トップ↓行政↓まちづくり計画

第1章「自然と調和した快適なまちづくり」の体系と主な数値目標

第1節 適正な土地利用の推進

- [1]土地利用
 - 1. 計画的な土地利用の推進
 - 2. 都市計画の推進
 - 3. 中心市街地の整備
 - 4. 地域の特性を生かした景観保全

第2節 交通基盤の充実

- [1]道路・交通
 - 1. 広域的な道路体系の確立
 - 2. 幹線道路の整備
 - 3. 生活に身近な道路の整備
 - 4. 公共交通の充実

第3節 快適な住環境の整備

- [1]上水道
 - 1. 上水道の整備
 - 2. 水道事業の健全化
- [2]下水道
 - 1. 下水道の整備
- [3]河川
 - 1. 安全な河川の整備
 - 2. 親水性を高めた水辺環境の整備
- [4]公園・緑地
 - 1. 公園・緑地の整備

第4節 循環型社会の形成

- [1]環境保全・公害
 - 1. 環境保全
 - 2. 環境美化の推進
 - 3. 水質浄化の推進
 - 4. 公害の防止
- [2]廃棄物処理
 - 1. ごみ、し尿処理の改善
 - 2. リサイクルの推進

第5節 防犯・防災機能の充実

- [1]消防・救急
 - 1. 消防力の強化
 - 2. 救急体制の充実
- [2]防災
 - 1. 防災対策・体制の充実
 - 2. 防災情報体制の整備
 - 3. 応援体制の整備
- [3]交通安全・防犯
 - 1. 交通安全対策の充実
 - 2. 防犯対策の強化

指標	実績値		目標値	指標の考え方
	H22年度末	H28年度		
市街化区域内住宅比率(%)	61	65		基礎調査における宅地化率が低いことから宅地化率向上を目標とする。
都市計画道路の整備進捗率(%)	45	60		都市計画道路(神立停車場線)の全線整備に向け整備率を目標とする。
生活道路の改良延長(m)	353,168	356,000		市民生活を支える生活道路の快適性、安全性の向上を目的とし、生活道路の改良を進める。
市が運営する公共交通1日当たりの利用者数(人)	58	85		市が運営する公共交通の乗降客数の増加を図る。
上水道有収率(%)	88.0	90.0		配水管の更新、漏水調査および漏水修理を行うことにより、水道事業経営指標(21年度)全国平均値90%を目標とする。
水道普及率(%)	93.3	95.0		水道配水管の新設および増口径化により、給水人口の増加を図る。
公共下水道整備率(%)	83.19	84.72		累加整備面積/事業許可面積(農業集落排水は100%)
汚水処理人口普及率(%)	83.31	83.95		(下水道処理人口+農業集落排水処理人口+合併浄化槽処理人口)/行政人口×100
市民一人当たりの公園面積(m ² /人)	8.3	8.5		市民の憩いの場として、公園面積の拡大に努める。
市公共施設から発生する二酸化炭素年間排出量(t/年)	3,660	3,000		電気、ガス、燃料使用量を二酸化炭素排出量に換算した数値(小中学校などを含む)
霞ヶ浦清掃大作戦年間参加者人数(人/年)	11,541	12,500		霞ヶ浦周辺市町村が実施する清掃大作戦の参加者数を増加する。
主要河川BOD値の改善達成割合(%)	84.6	100		市内の9河川13定点でのBODの国基準値2.0mg/l以下の達成割合
年間立ち入り検査、指導件数(件/年)	43	50		公害苦情に対する発生源の究明、原因者への指導、再発防止策などの年間対応件数
市民一人1日当たりのごみの排出量(g/日)	945	900		県のごみ処理計画の目標値949gと市の実績を踏まえ設定
ごみのリサイクル率(%)	12	15		県のごみ処理計画の目標値23%と市の実績を踏まえ設定
消防水利の設置数(箇所)	1,532	1,568		年間6か所の設置を目標に設置した数値
救急救命士の数(人)	15	24		3台の救急車を高度利用するための救急救命士の養成目標。
救急講習受講者累計人数(人)	1,733	5,000		消防本部が行う救命講習会の受講人数年間540人を目標とする。
防災訓練参加者人数(人)	600	4,000		実績値は単年度、目標値は24~28年度の合計。単年度800人を目標値に設定。
防災無線の故障件数(件)	2	0		定期点検の着実な実施により故障を防ぎ、災害に備える。
災害協定の締結数(団体)	5	20		災害時の応急対応を着実に進めるため、企業や協力団体との災害協定を推進する。
交通死亡事故件数(件/年)	7	0		市内で発生した死亡事故件数0件を目指す。
防犯灯の設置補助(灯)	60	300		行政区が設置する防犯灯の数(実績値は単年度、目標値は24~28年度の合計)